

シンフォニー

第 **41** 号
2019年 1月 January

発行/医療法人社団協会 彩の国東大宮メディカルセンター 編集・文責/広報委員会

〒331-8577 埼玉県さいたま市北区土呂町1522 TEL.048-665-6111 FAX.048-665-6112 <http://www.shmc.jp>

特集

Feature Articles

平成31年

年頭のご挨拶

謹んで新年のお慶びを申し上げます。

このたび、彩の国東大宮メディカルセンター院長を拝命いたしました。これまで坂本院長が築き上げてこられたこの素晴らしい病院を引き継ぐのは、浅学非才の身には重すぎる大役ですが、自分らしさを忘れずに新しいチャレンジを楽しんでいこうと思っています。どうぞよろしく願いたします。



新院長
藤岡 丞

さて平成がまもなく終わり、いよいよ5月には新しい元号が制定されます。思えばこの30年間、大災害やテロ事件など、いろいろな出来事がありました。医療界も、急速に進む少子高齢化と人口減少、社会保障費の抑制政策など、さまざまな変化に翻弄されてきました。そのような中でも、当院は、医療の質を高める努力をひたすら続け、地域に貢献してまいりました。そして今では、日本の医療をリードする存在になったと自負しております。

新しく始まる時代ではどんなことが起こるのでしょうか。ITはさらに急速に普及し、近い将来にはIoTやAIが医療にも導入されていくでしょう。また、グローバル化が進行し、患者さんはもちろん、職員も多国籍になっていくでしょう。そしてダイバーシティを尊重した新しい働き方が求められてくるでしょう。このような大きなパラダイムシフトの中で成長を続けていくために、私たちはどのような取り組みをしていけばいいのでしょうか。

私たちはこれからも常に、患者さんへの、そして仲間同士のホスピタリティ精神を大切に、時代の先端を歩んでまいります。そして「患者さんも職員も、みんなが笑顔になれる病院」を築いていきたいと考えます。

本年もみなさまの応援のほど、よろしく願いたします。



放射線科



診療放射線科 部長
明星 匡郎

放射線機器を使用した画像診断、および治療を行う科であり、それぞれ診断専門医3名、治療専門医1名が診療にあたっています。また、実際に機器操作にあたる診療放射線技師20名、ケア、注射などにあたる看護師3名、受付事務員1名と、病院の一部門としては大所帯の診療部門となっています。

1 1 新しいCTはスピードも速く、被ばくが大幅に低減します！

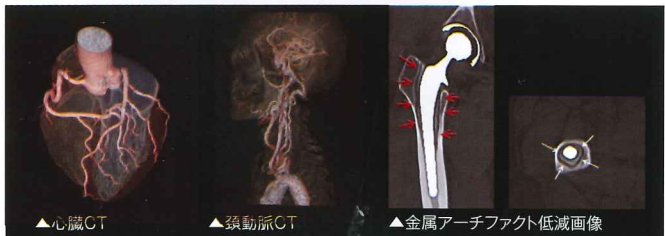
この度12月13日より稼働し始める最新型のCTは、画質の向上はもちろんのこと、スピードが速くなることにより検査される方の負担が減ります。また、心臓血管を精査するような複雑な検査の被ばくが従来の1/10程度まで低下するとされており、快適に、また安心して検査を受けていただけるのではないのでしょうか。また、CTが2台体制になることにより、急な検査でもお待たせする時間がかなり低減するものと期待しています。



詳細な画質で病変や腫瘍が見つけやすくなります。

GE社256列CT

高精細なCT画像



▲心臓CT

▲頰動脈CT

▲金属アーチファクト低減画像

2 PET-CTや高磁場(3T)MRIなどの先端機器も充実しています！

当院では2015年の病院移転時よりFDG/PET-CT検査が導入されており、がん治療センターや予防医療センターを擁する当院においては、がん検診やがん診療の強力なツールとして大活躍しています。この検査だけでは不十分な場合もありますが、思いもかけないような病気が見つかることもあり、上手に利用すると多大な力を発揮します。

また、高磁場(3T)MRIの画質は大変素晴らしく、頭部血管など細部に至る領域についても描出能力が格段に向上しています。ただ、MRIは繊細な検査であり、多少の動きにも画

質が乱れてしまうという特性があり、上手に使い分けていく必要があります。MRI検査はCTなどよりも時間を要する検査ですが、MRIも2台体制でお待たせしないように心掛けています。



MRI



PET-CT

そのほかにも充実した設備、検査内容となっています！

予防医療センターと協力し、さいたま市住民健診の胸部X線検査、胃部X線検査、マンモグラフィを受託しています。また、頭部や心臓などの血管造影検査が行われる装置も当科にあります。

われわれ放射線科では、皆さまが安心して検査を受けていただけるように、たゆまぬ努力を続けています。



よりよい病院をめざして

在宅支援室の取り組み

在宅支援室 上田 貞子

患者さまが退院後もその方らしい生活を送ることができるよう
ケアマネージャーや訪問看護師との連携により細やかな支援を提供しています。

当院の在宅支援室は、看護師4名が配置され日々病棟ラウンド
を行い退院支援・調整の介入を行っております。

医療制度の改革により、入院期間が短くなっている現在、必要な医療を効果的に提供し、並行して早期に生活の場に戻れることが重要とされています。そのため、看護師は退院に向けて入院当初から患者さまと関わる必要となり、「入院した時からの退院考慮」ということを退院調整看護師の役割として認識しております。

退院調整に関わる看護師としての役割は、以下となります。

- ①入院した時から退院を考慮
- ②ご家族の気持ちに共感
- ③患者さま、ご家族と信頼関係を構築
- ④退院後の生活を想定しての在宅管理ができるよう指導
- ⑤院外への情報提供等

在宅支援室看護師の主な業務は、入院された患者さまのラウンドを行い入院前の日常生活動作や介護保険の取得等の確認を行い、問題がある場合はご家族と面談を行い、患者さま・ご家族がどこでどのように過ごしたいか、今後についてどのような希望や不安を抱えているのかを把握して問題点を明確にし、ソーシャルワーカー

と共に介入を行います。そしてケアマネージャーとも連携して問題解決ができるよう、調整していきます。このように退院支援看護師は、外部とのパイプ役という役割もあり入院前の患者情報についても多職種間で共有できるようにしております。

在宅退院の場合は、患者さま・ご家族、ケアマネージャー、訪問看護師、リハビリ担当者、病棟看護師等で退院前カンファレンスの開催を行い、退院後にに向けた必要なサービス利用・環境調整等を行います。また、他には在宅療養に関する医療処置、介護保険申請手続きに関すること、在宅医療支援診療所(往診医)や訪問看護ステーション等の紹介や地域包括支援センターの案内・調整等も行っております。

なお、経済的問題、在宅退院困難で施設などへの退院方向の患者さまの場合は、ソーシャルワーカーと情報を共有し、ご家族との面談により検討しております。

退院後の療養生活に関することで不安やお困りのことがあればいつでもご相談下さい。



糖尿病看護認定看護師

糖尿病と上手く折り合いをつけ、
生涯にわたるセルフケアが必要になります。
多職種と協力し療養支援を行っていきます。

糖尿病の治療の目標は、健康な人と変わらない日常生活の質(QOL)を維持し、健康な人と変わらない寿命を全うすることと掲げられています。そのためには、血糖・体重・血圧・血清脂質の良好なコントロール状態を維持し、合併症の予防に努めることが重要です。糖尿病は、ひとたび発症すると治癒することはありません。また、初期の段階では自覚症状が現れない場合も多く、適正な治療をうけ、生活状況を改善しないと気付かないうちに重症化してしまいます。

糖尿病の怖さは、重症化して合併症を発症することです。放置すると、網膜症・腎症・神経障害などの合併症を引き起こし、末期には失明や透析治療が必要となる事があります。糖尿病は、生活習慣が重要なガギとなっており、この疾患の対策は、発症の予防・早期発見・合併症の予防が重要となります。

糖尿病の合併症の一つである糖尿病性腎症は、新規透析導入の原疾患として第1位を占めていますが、治療と生活習慣の見直しにより、病状の維持または、一定程度の改善が期待できる場合もあります。

また、糖尿病性神経障害からなる足潰瘍に伴う下肢の切断については、世界では30秒に1本、足が切断されている現状があります。しかし毎日、足の観察や予防、異常の早期発見で足の切断まで



糖尿病看護認定看護師 飯島 香織

至らない状況につながります。

当院では糖尿病の合併症が重症化しないよう、疾患の知識や予防・対策を多くの方に知っていただくため、特に、糖尿病性腎症の重症化予防と足病変(足のトラブル)予防にスポットをあて、フットケアの実施、多職種と協力し勉強会の開催、個別指導・対応に力を入れています。

合併症の自己管理は、糖尿病以上に複雑で高度な自己管理技術が必要となります。自分にある合併症を正確に認識し、その管理のために具体的な療養方法を知ることが必須です。

だからこそ、患者さまと一緒に個々の療養行動について考えていけたらと思っています。患者さまが自分の病気に対してどのような思いを持ち、どのような療養行動を実践しているのか、困難となっていることは何かを患者さまと一緒に考え、支援に関わっていきたくと思っています。

患者教室のご案内 (ミニセミナー)

1月のスケジュール

ますます寒さが厳しくなる時期になりました。
今年も元気に過ごせますよう、ささやかながら
お手伝いさせていただきます。宜しくお願いします。

17日(木)「狭心症のくすり」

突然胸の締め付けられるような痛み・圧迫感、これが狭心症や心筋梗塞の発作。
働き盛りの方に多く、発作時の対応も含め大事に至らないように自己管理を。

22日(火)「糖尿病教室」～新春講演会 糖尿病をめぐる最新の話～

外部講師：福田先生をおまねきして行います。

2月のスケジュール

寒さが一番厳しい時期です。
体の不調をかじったら、早めに受診をしましょう。

21日(木)「花粉症のくすり」

まだ早いと思うでしょうが、花粉症の対策はこの時期から始めるといいですよ。

26日(火)「糖尿病教室」～糖尿病と感染症～

28日(木)「薄味じゃない。減塩!」

減塩食を美味しくする秘訣。

数字アラカルト

(平成30年8月～30年11月平均)

- 入院稼働率 …… 91.6%
- 1日平均入院患者数 …… 308.5人
- 平均在院日数 …… 15.7日
- 1日平均外来患者数 …… 580.6人
- 救急搬送件数 …… 530件/月
- 手術件数 …… 223件/月
- 紹介患者数 …… 803件/月

興味のあるセミナーに、
ご自由にご参加ください。

場 所

2F エデュケーションセンター

時 間

13時～

交通案内図



JR
宇都宮線・湘南新宿ライン・上野東京ライン
「土呂駅」東口より 徒歩約11分

東武アーバンパークライン
「大宮公園駅」より 徒歩約9分

自動車
首都高速埼玉新都心線「さいたま見沼」ICより 約18分
東北自動車道「岩槻」ICより 約21分



あけましておめでとうございます。

平成も今年でいよいよ最後となりました。

今年から当院も長年勤めた院長が変わり、新院長と共に新たな歴史が始まります。

引き続きご支援、ご協力を賜りますよう今年もよろしくお祈いします。 広報委員会/大山



医療法人社団協友会

彩の国東大宮メディカルセンター

〒331-8577 埼玉県さいたま市北区土呂町1522

TEL.048-665-6111 FAX.048-665-6112

彩の国東大宮メディカルセンター

検索